

SD-WAN の主な要件

クラウド時代のネットワーキングの再考



エグゼクティブサマリー

現在、デジタル変革が急速に進んでいます。デジタル変革では、クラウド、サービス、モバイルが代表的です。これらを組み合わせた、ハイブリッドで、常時インターネットに接続した、ユーザ中心の世界です。ここで最も重要となるのは、これらのすべてを一緒に、シームレスにオーケストレーションさせることです。

真のデジタル変革は、エンドユーザがデジタルサービスにシームレスにアクセスできるようにアプリケーション、ネットワーク、およびデバイスを調整する能力があるか否かで決まります。

こうしたオーケストレーションは、すべてを結ぶもの、つまりネットワークによってのみ実現されます。集中管理、制御され、自己完結型の過去のエンタープライズ IT 環境では、静的なハードウェアベースのネットワークが正常に機能しました。一方で今日、アプリはオンプレミスとクラウドの両方にあります。ネットワークも、プライベートとパブリックの両方があります。ユーザは、モバイルからもリモートからもアクセスします。つまり IT はこれまで以上に分散化、断片化され、動的になっています。ハイブリッドアプリ、ハイブリッドネットワーク、モバイルユーザーの交わる、この混乱を整理するには、接続とアクセスのすべてのコンポーネントについて、ポリシーの自動化と、リアルタイムオーケストレーションに基づいた、ネットワークへの新しいアプローチが必要となります。その新しいアプローチとは、ソフトウェア定義のワイドエリアネットワーク (SD-WAN) です。

現在、SD-WAN は当初のブーム段階を過ぎ、大きな成長期を迎えています。多くの企業がパイロットプロジェクトと概念実証を行い、現在は企業規模の導入に移行しています。大規模なデプロイメントが成功した今、SD-WAN はクラウドの価値を最大化するために欠かせない、信頼できるテクノロジーになりつつあります。さらに成長市場では、グローバル企業から中小企業まで、20 社以上のベンダーの関心を集めたのも当然と言えるでしょう。ソフトウェア定義ネットワークにより、仮想化されたネットワーク機能の分解と集約の両方が可能となりました。そのため、通信会社もまた、こうした一連の能力を提供できるマネージドサービスプロバイダーとしての行動を起こし始めています。

ベンダー、サービスプロバイダー、様々なソリューションがそれぞれ異なるマーケティング訴求をする混雑の様相を呈する状況を前にして、どのように選択すればよいのでしょうか。あなたのビジネスにとって最大の利益をもたらす SD-WAN ソリューションに必要な要件や機能とは何でしょうか。

エンタープライズ規模のソフトウェア定義による接続性およびオーケストレーションの素地を作り出すには、次の機能が必要です。

- 拠点のハイブリッド WAN から、クラウドインフラ環境、そして拠点の無線および有線の LAN ネットワークを介したエンドユーザへの到達も含めて、すべてのエンタープライズネットワークを統一し、接続性ファブリックの完全なビューを提供することで、クラウドコンソールから中枢管理します。
- パフォーマンス目標の実施を自動化し、すべてのアプリやユーザに、場所を問わずアクセス権を与えるビジネス連携ポリシーでグローバルにオーケストレーションします。
- オンプレミスネットワークコンポーネントの「ゼロタッチ」アクティベーションと、クラウドネットワークへの「ワンクリック」拡張機能により、遠隔地からデプロイします。

以上は、このホワイトペーパーで詳しく説明する SD-WAN アーキテクチャにおける 3 つの必須要件です。

中枢管理能力

課題の考察

複雑さの中でもスピードを向上。サイトの迅速なデプロイ、アプリケーションの展開、変更の管理、そしてシームレスなアプリケーションパフォーマンスの確保など、IT 組織に対する企業全体のプレッシャーは、かつてないほど高まっており、今後もますます高まる見込みです。

同時に、IT 組織が包括的なセキュリティ、パフォーマンス、および可視性を保証することを求められる、ハイブリッド環境の複雑さも、かつてないほど高まり、今後も増大していくでしょう。

データセンター、アプリケーション、およびストレージのクラウドへの移行は、デジタル変革の道筋として重要なステップです。現在、企業には、クラウドベースのアプリケーション (SaaS) とインフラストラクチャ (IaaS) で達成しているのと同じクラウド水準の機敏性をネットワーキングで実現することが求められています。また、プライベートな企業ネットワークを介して提供されるオンプレミスアプリから取得するのと同様以上のパフォーマンスが必要です。

分散配置と操作の合理化。しかし、ネットワーキングに対する企業のアプローチは、他の IT 要素ほど速く進化していません。レガシーネットワークは引き続きハードウェアの制約を受け、ハードコーディングされたもので、柔軟性に欠け、エラーが発生しやすくなっています。現行の管理モデルは分散化されています。ルーターは手動でフィールドにデプロイされているため、エンジニアが拠点のルーターインターフェイスで難解な CLI コマンドを入力し、時間と労力のかかる作業となっています。そして拠点では、IT の専門知識を持たない従業員が、ローカルネットワークデバイス、ファイアウォールなどをインストールすることがよくあります。こうした昔ながらの方法では、ネットワークの変更に数か月かかるため、エラーが頻発し、リンクの損傷が多発し、アプリの遅延やエンドユーザー体験が劣悪なものになります。

SaaS アプリケーションの可視性と制御を実現。組織の承認なしにアプリケーションを臨時的に使用するシャドウ IT では、アプリケーション管理がより困難になり、従業員が、業務遂行のために会社から提供されているものより良い解決策を求めるといった事態はむしろ増えています。帯域幅が今や簡単に入手可能となり、より手頃な価格となったため、SaaS とクラウドアプリケーシ

ョンの導入はすばやく行われ、どのアプリケーションが使用中で、誰が使用しているのかを IT チームが把握できなくなっています。また、エンドユーザエクスペリエンスに対する可視性も低くなり、IT チームにはインフラストラクチャを管理したり、アプリケーションパフォーマンスを制御する能力はほとんどありません。さらに、ネットワークを横断するアプリケーションの大部分は暗号化されており、これらはアプリケーション識別情報をマスクするため、ビジネスクリティカルトラフィックとレクリエーショントラフィックの間の識別能力をさらに複雑にしています。それでも IT 部門には、すべてのユーザーにすべてのアプリケーションのパフォーマンスを保証する責任があります。

ハイブリッドネットワークに対する自動経路制御。ネットワークトラフィックが増加し続けるにつれて、帯域幅に対する需要は高い割合で増加し続けています。これは、誰もが依存している膨大な数のアプリケーションが増大したこと、ならびにビデオやリアルタイムのコラボレーションなど、帯域幅を大量に消費するアプリケーションの普遍的な使用が増していることに起因します。より安価な容量の場合、企業は既存の MPLS ネットワークにインターネットブロードバンドリンクを追加します。IDC によると、企業データトラフィックの 40~60% は、プライベート WAN からインターネットへと移行しています。これはハイブリッドネットワーキングの状況を作り出すため、複雑さが増し、自動パス選択が必要となります。

従来のネットワークへのアプローチでは、環境の複雑さ、トラフィックの量、ビジネスポリシーのダイナミック実行などに対応できません。パスの選択には、アプリ、ネットワーク、および宛先を表示する必要があります。企業の接続性を確保するため、輸送手段としてインターネットブロードバンドを利用することはまた、アプリのパフォーマンスとエンドユーザエクスペリエンスを予測不能にする恐れがあります。理由は、アプリがパブリックネットワークを介して配信されると、追加のジッタとパケット損失の影響を受けるため、この場合、利用可能なすべてのパスの品質に対して、即時かつ完璧な可視性が必要です。このように、ビジネスポリシーに基づくパスステアリングの自動化が正しく動作するためには、SD-WAN システムによる、アプリケーションの宛先、そのパフォーマンス、アプリケーションを使用するエンドユーザエクスペリエンス、およびそれらの間で利用可能なネットワークの品質に対するリアルタイムの可視性に基づき、インテリジェントかつ即時のメトリックの相関が必要です。

拠点のアプリケーションパフォーマンスの向上。遅延と帯域幅の問題がもたらす、アプリケーションパフォーマンスとエンドユーザーエクスペリエンスへの悪影響は、遠隔オフィスや拠点オフィス (remote offices and branch offices: ROBO) やモバイルユーザーの普及により拡大し、ネットワークアクセスやトラフィックパターンを根本的に変化させています。企業の従業員と請負業者の約 80% が、ROBO で働いており、WAN 経由で重要なビジネスサービスにアクセスし、初期の設計パラメータをはるかに超えて、帯域幅要件を押し上げています。こうした遅延と品質の問題を解決するには、オンプレミスおよびクラウドベースのアプリケーションとサービスの両方において、企業全体のシームレスなパフォーマンスを実現するために、異なるネットワークを統合して最適化することが求められます。

SD-WAN 要件

今後のネットワーク管理の要件は、ポリシーを介し、データセンターとクラウドアプリケーションを拠点やモバイルのユーザと接続する、企業の接続性ファブリックの包括的ビューを提供する、いわゆる「ガラス板」で中核的に実行できるようにすることです。つまり、ハイブリッド WAN、クラウドネットワーク、拠点の無線および有線 LAN を、単一のポリシーフレームワークに行き渡らせ、一体化させる、統合管理プラットフォームにすべて集めます。

この目標を達成するには、中央の SD-WAN オーケストレータが次の作業を行う必要があります。

- **ビジネス連携ポリシー**を、アプリケーション、ユーザ、ロケーション、パフォーマンス SLA、セキュリティ上の制約など、新しい一連のプリミティブに基づき、シンプルで平易な言語の指示を使用してサポートします。この時、技術的側面のルーティングではなく、ビジネスの現実世界に対応することで、技術的な変換や仲介、およびエラーが発生しやすいデバイス指向の構成アップデートの必要性を排除します。
- クラウドネットワーク、WAN、拠点 LAN / WLAN にまたがる、**統合されたネットワークファブリック全体でソフトウェア定義の制御を実現し**、任意の点から点まで、ビジネスポリシーによって制御される、シームレスで安全なアプリケーションデリバリーを保証します。
- 新しいネットワークエンドポイントのインスタントで弾力的な拡張を追加の操作オーバーヘッドなしに可能にする**直感的でクラウド中心のワークフロ**

ーを提供します。この時、遠隔地へのゼロタッチプロビジョニングと、自動化した「シングルクリック」拡張による接続性と、クラウド環境へのオーケストレーションも実現します。

- データセンター、遠隔地、クラウド、およびエンドユーザ間で、**安全かつ暗号化された相互接続性 (VPN) の作成を自動化**します。
- 中央管理コンソールで定義されたポリシーに基づき、**パフォーマンスとセキュリティ管理を強制**します。

グローバルなオーケストレーションの能力

今日のハイブリッド企業にとって、効果的な SD-WAN ソリューションでは、ソフトウェア定義およびビジネスポリシーに基づくオーケストレーションの機能を、ハイブリッド WAN、クラウドネットワーク、拠点の無線 LAN および有線 LAN などの接続性素地全体にわたって適用する必要があります。

課題の考察

クラウドへの即時プロビジョニング。IaaS サービスの柔軟性とオンデマンド性を考えると、SD-WAN は、クラウドに即座に接続できる必要があります。これには、ゲートウェイをクラウドプラットフォームに自動的にプロビジョニングし、仮想プライベートクラウド (VPC) とオンプレミスの場所の間で自動フルメッシュ接続を有効する機能が必要です。最も簡単で最速のソリューションとしては、安全な SD-WAN ゲートウェイと完全に自動化された WAN 最適化を実現しつつ、安全かつ最適化された方法で、WAN を IaaS の場所にワンクリック拡張することです。

SaaS アプリケーションのセキュリティ確保、最適化、トラブルシューティング。ローカルブレイクアウト管理から、遅延の緩和、エンドユーザエクスペリエンスの可視化まで、SD-WAN は SaaS アプリケーションのトータルな管理を可能にする必要があります。エンドユーザが体験するアプリケーションパフォーマンスは、ユーザー一人ひとりによっても、アプリケーションによっても大きく異なります。アプリケーションパフォーマンスに影響を与える要素：

- エンドユーザからアプリケーションサーバまでの物理的距離。一般的にはオンサイトアプリケーションより、クラウドベースのアプリケーションとの距離の方が長い

- SaaS トラフィックがエンタープライズ データセンター経由で、あるいはインターネット上で低コストの遠回りなルートを通じて迂回中継（バックホール）される場合に生じる余分な距離
- 特定の SaaS アプリに関連する大型のファイル転送を遅くする帯域幅の制約
- エンドユーザのデバイスの健全性およびパフォーマンス

アプリケーション、ユーザ、あるいはロケーションごとにネットワークパスを自動的に選択し、トラフィックを優先させる必要があります。アプリケーションパフォーマンスの問題の迅速なトラブルシューティングと解決これらの両方を行うには、SD-WAN ソリューションにはエンドユーザーからクラウドまでの可視性を提供できる、統合型ツールが必要です。

アプリケーションパフォーマンスの最適化。 IDC によって実施された最近のアンケート調査では、次世代 SD-WAN ソリューションのトップ 3 の機能は、セキュリティ、WAN 最適化、ポリシー制御／管理という結果が得られています。パフォーマンスの管理には、問題をリアルタイムで特定し修正することができる、インテリジェントな閉ループプロセスが必要です。アプリケーションの最適化は、中でも重要な部分です。

遅延の問題は、遠隔地のユーザにとってより顕著なものになります。使用中のさまざまなエンタープライズアプリを高速化するために、最適化により、あらゆるタイプのアプリケーションを合理化すると同時に、CIFS、HTTPS、MAPI、NFS、SQL などさまざまな標準ベースのプロトコルに対処して、WAN 全体でネットワークベースおよびアプリケーションベースのトランザクション数を削減し、応答時間の短縮とエンドツーエンドのスループットを実現する必要があります。また、ビジネスの重要性に基づき、インバウンドトラフィックとアウトバウンドトラフィックの両方が適切に優先順位付けされるよう、着信フローと発信フローに対して、QoS ポリシーに従って、帯域幅の使用を自律的に制御する機能も重要です。

エンドツーエンドの可視化。 SD-WAN 上でのアプリケーションフローの効果的な最適化では、利用可能なネットワークリソースとそのリソースの使用について、個々のアプリケーションとユーザが適切に理解する必要があります。ビジネスクリティカルなアプリケーションのパフォーマンスを保証するために、アプリケーションパフォーマンスに関し、最適化されたネットワークによって提供される包括的な可視性もまた必須となります。

SD-WAN 要件

目標は、すべてのアプリとユーザを対象としたビジネス連携したポリシーベースの自動化を用いることで、サービス品質とアクセス特権を定義することにあります。この時、自動化したパス選択、包括的なパフォーマンス監視、WAN の最適化、およびセキュリティとの組み合わせを行います。

この目標を達成するために、SD-WAN ソリューションには、グローバルオーケストレーションに関わるハードコアの技術的問題を解決するための、さまざまなイノベーションが必要です。

- **クラウドネットワーク間、および拠点ネットワークへの自動化かつセキュアな接続性が、VPN の作成において運用オーバーヘッドを最小限に抑えます。**
- **包括的な可視性や WAN 最適化などの重要なネットワークサービスとのシームレスな統合は、システム全体での最適なアプリケーションパフォーマンスに必要です。SD-WAN を WAN の最適化と併用することで、パフォーマンスとイントラストラクチャの効率がさらに向上します。**
- **Layer 7 情報に基づき、最初のパケットから、ローカルブレイクアウト、中央ブレイクアウト、クラウドベースのセキュリティブローカーに指向するトラフィックを選択する機能を備えたローカルブレイクアウトの効率的な管理。**
- **パスを選択する機能付きの自動パス制御は、利用できる帯域幅、遅延、ジッタ、またはパケットロスによって判断されるアプリケーションタイプ、ビジネス優先度、パス品質に基づいてお紺割れます。ビジネス関連のトラフィックは、経路の切り替えを伴う、最もパフォーマンスの高いパスでルーティングされ、必要に応じて動的かつ自動的に実行されます。**
- **包括的なネットワークセグメンテーションは、セグメンテーションのすべての側面で、「ゾーン」という単一の概念に統合されています。**
- **Layer 7 で定義されたアプリケーションに基づき、トラフィックを分離する機能です。**
- **Active Directory Sync を使用して、ユーザに基づきトラフィックを分離する機能です。**
- **WAN を介してトラフィックを分離したり、VLAN と Wi-Fi 認証を使用して、拠点の無線および有線 LAN へ分離する機能です。**

リモートでのデプロイ機能

クラウドベースのアプリケーションでは、すべてのユーザがリモートになります。効果的な SD-WAN ソリューションは、エンタープライズ接続性およびオーケストレーション素地を、中枢管理場所から、すべてのユーザに提供するために拡張する必要があります。この場合、従業員、パートナー、顧客にかかわらず、地理的拠点がどこであろうと、必要なアプリケーションとデータへの容易で安全、かつ高性能なアクセスを提供します。

課題の考察

ゼロタッチプロビジョニング。 SD-WAN は、それぞれの新規デバイスが通常、より広範なネットワークに渡ってカスケード変更を生成し、何か月もの計画と慎重な実行が必要となる、手間のかかる手動およびデバイス中心のデプロイメントと個別ルータの設定の必要がなくなります。その代わりに、SD-WAN を使用することで、集中管理されたポリシーを活用し、ネットワークをクラウドから設計、デプロイ、オーケストレーションできます。ゼロタッチ vs. ハイタッチ (手間がかかる) ガラス製の中央パネルから簡単に変更できる vs. 現場ルータのデバイス中心型構成 デプロイの前に構成し、テスト可能 vs. 業務運用中のアプリの不具合によって明らかになる CLI エラーが発生。

既存のネットワーク要素との統合。 自動化されたゼロタッチプロビジョニングは、企業が少数の SD-WAN 拠点から数千単位に移行する際に、特に重要です。これを行うには、拠点でのゼロタッチプロビジョニングに加えて、WAN 最適化やネットワークファイアウォールなど、ポリシー定義とオーケストレーションに対するアプリケーション中心のアプローチに妥協せず、他の WAN および LAN の拠点ネットワーク要素と統合する機能が必要になります。

既存のルータでの作業。 現実的には、クラウドの導入と同じく、企業は自社のペースで SD-WAN に移行します。拠点のルータを SD-WAN アプライアンスに置き換えたい企業がある一方、SD-WAN ソリューションのデプロイメントを中間手順としてオーバーレイを選ぶ企業もあります。加えて、使用中の SD-WAN ソリューションは、まだポリシーベースのネットワークに移行していないサイトと、まだ廃止されていない、レガシールーティングのある拠点とで共存できなければなりません。SD-WAN ポリシーオーバーレイは統合され、最適化されたネットワークを迅速にプロビジョニングするため、既存のルータ、WAN 最適化アプライアンス、その他の既存アプライアンスとサービスに、自動的に統

合される必要があります。また、SD-WAN をオンプレミスデータセンターにシンプルかつ無停止で拡張することができます。

LAN と WLAN への拡張。 SD-WAN ポリシーベースの管理は、次のような一般的な活用例をサポートするため、拠点 LAN および WLAN にも拡張する必要があります。

- **ゲスト用 Wi-Fi** SD-WAN ソリューションには、ゲストと従業員とで異なる (ウェブフィルタリングを含む) パフォーマンスとセキュリティのために、特定のポリシーを定義する機能が備わっている必要があります。具体的には、ゲストはログに記録され、Wi-Fi を提供され、セキュリティのためにコンテンツがフィルタリングされ、ゲストのトラフィックが会社の業務パフォーマンスを阻害しないことを確認します。
- **BYOD。** ゾーン別のネットワークの論理的分離により、BYOD トラフィックその他の安全でないトラフィックは、機密性の高い社外秘データトラフィックとは異なるパスに配置できます。これは大きな管理負担をかけずに、セキュリティ違反を防ぐためです。
- **IoT。** 同様に、セキュリティまたはパフォーマンス上の理由から、必要なポリシー機能を、従来のトラフィックから IoT トラフィックを分離する必要がある IoT 環境に、拡張することができます。

SD-WAN 要件

目標は、必要なすべてのセキュア WAN ゲートウェイ、拠点 LAN スイッチ、Wi-Fi アクセスポイント、ファイアウォール、および WAN 最適化を自動的にアクティブ化することで、ゼロタッチでローカルにデプロイすることです。この場合、ワンクリックで接続性素地をクラウドネットワークに即座に拡張でき、SD-WAN をオンプレミスのデータセンターに簡単かつ無停止で拡張できます。

この目標を達成するには、SD-WAN が次の機能を有効にする必要があります。

- 拠点所在地に専門人員を派遣する必要なく、**ゼロタッチで新しい拠点機器をプロビジョニング**する電源ケーブルとデータケーブルを差し込むだけで接続を確立でき、拠点の専門知識を持たない人でも作業が可能。ターンアラウンドタイムを短縮する直感的なワークフローによって、構成は、拠点とは別の場所から行うことができ、繰り返し更新可能。

- 拠点ルータを、共同運転できるようオーバーレイまたは置換、または顧客宅内機器 (Customer Premise Equipment: CPE) の拠点ルーティングデバイスを拠点の「シン」装置に置換し、コア SD-WAN とルーティング機能が同一の物理アプライアンスまたは仮想アプライアンス上で利用可能になるようにします。
- ネイティブのファイアウォール機能とサードパーティの CASB またはオンプレミスファイアウォールとの統合機能を使用したセキュリティ。
- ホワイトボックスのハードウェア / NFV デプロイメントとの柔軟な統合のための、パブリック / プライベートクラウド環境に移行する物理的、仮想的、およびクラウドベースのフォームファクタで利用可能なアプライアンスを用いたデプロイメントオプション
- および遠隔地のビジネス拠点でのワイヤレスアクセスポイント、有線 LAN スイッチのセキュアな SD-WAN ゲートウェイを含む拠点、データセンター、クラウド上の、すべてのエンドポイントに及ぶ完全なソフトウェア定義型ネットワーキングソリューション

概要

企業がデジタル変換するにつれて、こうしたネットワークは、エンドユーザーにとってデジタルサービスへのシームレスなアクセスを提供する場でなければなりません。

一方で、IT が分散し、ますますハイブリッドかつダイナミックになっていくにつれて、ハードウェアに束縛されたレガシーネットワークは、当初の義務を果たすことができなくなっています。IT の混乱を計るためには、ネットワーキングの新しいアプローチが必要です。

これこそが、SD-WAN の責任です。つまりグローバルで統一されたネットワーク上にあるデジタルアクセスの、すべてのコンポーネントについて自動化し、オーケストレーションするためのビジネスポリシーを使用する能力です。

- データセンターとクラウドアプリケーションを拠点やモバイルのユーザーと接続する、企業の接続性素地の包括的ビューを備えたクラウドコンソールから、**中枢的に管理**します。ここでは、ハイブリッド WAN、クラウドネットワーク、拠点の無線および有線 LAN を、単一のポリシーフレームワークに行き渡らせ、一体化させる、統合管理プラットフォームにすべて集めます。
- ビジネス連携型のポリシーベースでの自動化を使用して**グローバルにオーケストレーション**し、サービス品質とアクセス特権をすべてのアプリとユーザーに対して定義します。この時、自動化された経路ステアリングと組み合わせ、ハイブリッドネットワーク、統合型エンドツーエンドのパフォーマンス監視、WAN 最適化、およびセキュリティを提供します。
- 必要なすべてのセキュア WAN ゲートウェイ、LAN スイッチ、Wi-Fi アクセスポイント、セキュリティサービス、およびファイアウォールを自動的にアクティブ化することで、**ゼロタッチで遠隔にデプロイ**します。この場合、ワンクリックで接続性素地をクラウドネットワークに即座に拡張できます。SD-WAN をオンプレミスのデータセンターに簡単かつ無停止で拡張できます。

これらの目標を達成するには、ネットワーキングの完全な再考と、多くの技術革新、機能、および統合が必要です。なぜなら、複雑なものを単純化し、手動で行っていたことを自動化し、全体的に断片化されていたものを統一しなければならぬためです。

このホワイトペーパーでは、貴社組織をデジタル時代へと安全に移行させるために効果的な SD-WAN ソリューションのうち、最も重要な機能をいくつか取り上げました。潜在的なソリューションの機能を、時間をかけて掘り下げて、また飛躍する前に足場を確かめ、徐々に試すことが、組織の利益に繋がります。そうすることで、貴社のビジネスが頼れる存在となるでしょう。

リバーベッドについて

年間収益が 10 億ドルを上回るリバーベッドはアプリケーションパフォーマンスインフラストラクチャにおけるリーダーであり、期待通りのアプリケーションパフォーマンス、必要に応じた継続的なデータ可用性、そしてビジネスパフォーマンスに影響する前にパフォーマンスの問題を積極的に検出・解決を確保する、ハイブリッドエンタープライズ用の非常に包括的なプラットフォームを提供しています。リバーベッドは、従業員の生産性を最大化し、IT を活用して新しい形の業務上のアジリティを生み出すことにより、ハイブリッドエンタープライズがアプリケーションパフォーマンスを競争上の利点に変えられるようにします。リバーベッドの 28,000 を超える顧客には、フォーチュン100 の 97%、フォーブスグローバル 100 の 98% の企業が含まれます。

詳細は、jp.riverbed.com のウェブサイトをご覧ください。